

# アジアで共に生きる

## — 中村哲医師 —

パキスタン北西部辺境州は、世界でも屈指のハンセン氏病(ライ病)結核、流行性肝炎などの多発地域である。カラコルム山脈の広大な山岳地域では、大略の村々は峻険な山岳に隔てられ、夏期は日中40度を超える猛暑地域である。

その中で人々は部族社会を形成し昔ながらの生活を送っている。

一九七八年、福岡登高会ティリチミール峰登山隊の医師としてこの地を訪れた、中村哲氏は当地の貧弱な医療体制と病気に苦しむ人々を眼のあたりにして、重荷を負いあい、支えあってアジアで共に生きる。という願いから、JOC S(日本キリスト教海外医療協力会)の一員として、現地の州政府のハンセン氏病撲滅計画の一翼を担ってわずかな医療器具と薬品で懸命な活動をしています。ハンセン氏病は殆んどが乳幼児期の家庭内感染であり、また社会的偏見も強い

そのため患者発見の巡回診察が必

要です。特にイスラム教の教えから家を出ることが少ない女性患者の早期発見と衛生教育が必要とされています。

(左) ハンセン氏病の患者さんと話をしている中村医師。当面、ハンセン氏病の診療が中村医師のおもな仕事。



そして今、この中村哲医師を支援し、アジアについて学び共に生きることを目的として出来た地元福岡の支援グループ「ベジャワール会」では、その医療活動に必要な巡回診療車を送る為の募金活動を行っています。

### 連絡先

〒810 福岡市中央区大名一の二の八  
ベジャワール会 事務局  
☎092-781-17410

### 中村哲医師略歴

一九四六年(昭二一年)福岡市生れ。現在、実家は粕屋郡古賀町花見。九大医学部卒業後、脳神経内科医として国立肥前療養所・大牟田労災病院・久留米大学麻酔科・脳神経科馬場病院・徳州会病院等各地の病院に勤務し、パキスタン行きを決心した後、岡山県の国立邑久光明園にてハンセン氏病、清瀬市の結核研究所にて結核を、イギリスにて熱帯医学を学び、一九八四年五月より、パキスタン・ベジャワールのミッションホスピタルにて勤務中である。

### 中村医師の手紙より

一般病棟も、ライ病棟も、古いモスクを改造した礼拝堂も、スタッフたちも、全て変りがなかった。昨年来病院内では私がまもなく来るという誤報が毎月とびかい、首を長くして待っていたとのことである。ライ病棟では、古い患者たちが私をみつけると、眼を輝かせて抱きついてきた。二ヶ月前に配属されたというシスターが病棟の責任者になっており、この若くて気のよい長身のドイツ人看護婦は小柄な私を見おろしながら嬉しそうに私を歓迎してくれた。病棟ではライ病を専門に診察してくれる医師の監督が不十分で、スタッフも心細かったのである。

しかし、患者もスタッフも、まるでベジャワールの雲一つない輝く青空のように、底抜けに陽気で明るかった。ここでも私はまたやってきたというよりは、帰ってきたのであった。変形して崩れたライ患者の手先の、ごつごつした手ざわりを何度もなつかしく確認した。